



日造協ニュース

2025.1月
通巻 第610号
Japan Landscape Contractors Association NEWS

新春特別号

2025年 新春座談会

新入・若手 U25 社員が語る
造園業への思いと展望

発行：一般社団法人日本造園建設業協会 編集：広報活動部会 <http://www.jalc.or.jp>
〒113-0033 東京都文京区本郷3-15-2 本郷二村ビル4階 TEL:03-5684-0011 FAX:03-5684-0012



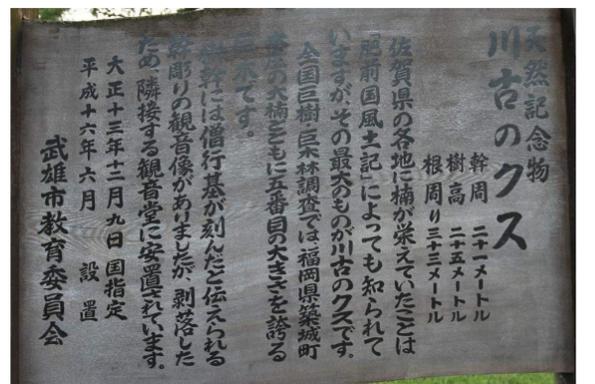
国の天然記念物「川古のクス」 佐賀県武雄市若木町川古

- 指定：大正13年（1924）12月9日
- 推定樹齢：3,000年を超える
- 樹高：25m
- 幹周：21m
- 枝張：東西南北27m

「川古のクス」は、佐賀県中西部の武雄市若木町川古の「川古の大楠公園」に生育する巨樹老木で、主幹の内部は空洞化しており、ここに稲荷の石碑が祀られている。

伝承によれば奈良時代の著名な僧侶である行基がこの地を訪れた際、当樹の幹に像高2.4mの観音像を直接刻んだと伝えられている。明治維新直後の廃仏毀釈により削り取られて、その際、観音像の頭部から鋳造で出来た4cmほどの観音像が現れ、主幹の空洞入口に祀られていた。現在は大楠に隣接して建てられた仏堂に安置されている。

佐賀県ではクスノキは、「県の木・県の花」に選定され、県民とクスノキは古くから縁が深く、県内各所にクスノキの巨樹や老木が多数生育している。中でも「川古のクス」は最大のもので、本樹そのものが信仰の対象とされ、長年にわたり手厚く保護されている。



謹賀新年

一般社団法人日本造園建設業協会

会長 和田 新也

令和7年の年頭にあたり

新年明けましておめでとうございませう。令和七年のお正月を、皆様方におかれましては、穏やかに過ごしてのことと、お慶び申し上げます。本年もどうぞよろしくお祈り申し上げます。

昨年を振り返りますと、正月に発生した能登半島地震をはじめとして自然災害の発生が相次ぎました。特に気候変動の影響により、豪雨や台風などの災害が頻発し、被害がますます甚大化している状況です。加えて、年々増加する猛暑日も私たちに多くの課題を突き付けており、自然との共生のあり方について改めて考えさせられる一年でした。また、世界各地における安全保障環境の悪化により、資機材価格の高騰や品薄が続く、日本国内の経済にも大きな打撃を与えています。特に建設業や造園業では、予算管理や工期に重大な影響が生じており、経営環境はますます厳しさを増しています。

一方、協会活動においては、コロナ感染症の影響はなくなり、総会や理事会は再び対面で開催されるようになりました。各種委員会なども対面を基本としつつ、ウェブの利用を積極的に取り入れ、より柔軟かつ効率的な運営を目指し取り組んでまいりました。

さて、日造協が取り組むべき課題は多岐にわたり、解決すべき難問が山積しています。

激甚化・頻発化する大規模自然災害に備えるため、防災・減災に資する取り組みを強化することが急務です。産学官が連携し知識と技術を共有して、皆様が憩える安心・安全な防災公園や既存公園の整備、緑地の保全など緑豊かな環境整備などの取

り組みが求められています。昨年成立した第三次担い手3法に基づき、労働・経営環境の改善を推進するとともに、担い手の確保・育成を図るための建設キャリアアップシステムへの対応も進めていかなければなりません。造園業で働く方々や造園業を目指す若者が、夢と誇りをもって活躍できる希望に満ちた産業となるよう、働き方改革の推進や昨年からの建設業界へ適用となった時間外労働の上限規制に対しても適切に対応していくことも重要です。

また、昨年から新たに創設された「緑地樹木剪定士」をはじめとするさまざまな資格の運用や、SDGs、カーボンニュートラル、グリーンインフラの推進といった社会的課題にも取り組んでいく必要があります。

本年は2025年日本国際博覧会の開催年となります。そしていよいよ2年後の2027年に横浜で開催されるGREEN X EXPO2027は、国内外の来場者に造園の素晴らしさ、多様な可能性、魅力を理解してもらえる最大の機会となることでしょう。本年の干支は乙巳で、これまでの努力や準備が実を結び始める時期と言われています。われわれが社会に提供してきた「みどりの価値」を広く国民に理解していただくための努力が実を結び、さらに活気あふれる業界へと変貌を遂げる年となるよう、会員の皆様のお力添えをいただきながら、本年も造園業の発展のために協会一丸となって努力して参りますので、引き続きご支援、ご協力をお願い申し上げます。



2025年新春座談会

感動とワクワクと癒しを提供する“造園の仕事”

トで「岡山県」「造園」を検索しました。東京に住み、日本大学の生物資源科学部で藤沢に通っていましたが、就職は祖母の家が岡山で、就職を機に岡山に住んでみたいと思い、ネットで知った今の会社の職場体験に参加し、いい会社だなどと思い就職しました。

能津 高校を出て就職しましたが、学校への求人票には造園系はなく、そのほかの求人票を見てもピンとくる会社がなかったため、近くのハローワークで紹介

していただいたのがきっかけです。

カ石 大手就活サイトに登録していましたが、造園系はどちらもヒットせず、会社の企業説明会に行っても造園は見当たらず、角さんと同じで、「緑化」など、いろいろなキーワードで検索し、出てきた会社のホームページを見て、その中に入ったのが今の会社で、興味が湧いたのでホームページの問い合わせからアクセスしたのがきっかけです。

角 私も能津さんにお聞きしたいのですが、植物を使う時に自社グループのものに限定されてしまったりしますか。

能津 僕の場合は半々です。いい悪いではなく好みですが、サカタの品種は原色が多いです。その他のA社やB社さんは、それとは違ったものがあつたりするので、現場に応じていろいろな種苗メーカーさんのものを使っています。

堤 実務経験が増えるにつれて任される仕事が多くなってくると思います。任された仕事に対しての責任、上司に言われたことを言われた通りというのではなく、1を聞いて10を知るではないですが、自分で考えて仕事をするとか、何かを聞く前に自分で調べられることはしておくとか、仕事をする上で気を付けていること、心がけていることがあれば皆さんにお聞きできればと思います。

川野 造園の仕事に限った話ではないのですが、気遣いをできるように気を付けています。というのも学生のときは言われたことをやるだけで過ごしていましたが、社会人になってからの仕事においては、所作というか、自分の行動を他の人が見たときに、どう映るのかということ意識せざるを得なくなったなと思っています。

というのも、自分が苦手なことだったので、できるようにしていきたいということも踏まえてそう思っています。

能津 作業で言うと現地調査をきちんとすることです。遠い現場のときのあるあるですが、「ここ測ってない」で、それ以降が一つも進まなくなるので、気を付けています。

また、僕はすぐ人に聞くタイプですが、聞いたことは二度聞かないように、一発で覚える、それだけは意識しています。

カ石 報告、連絡、相談「ハウレンソウ」のタイミングをつかむのが苦手です。責任感の話にもなると思いますが、どこまでを自分で判断して、どこから上司に相談すればいいかが分からなくなってしまったりして、タイミングを逃してしまうことがあるので、それで迷惑を掛けることがないように、ハウレンソウをきちんとできるように心がけています。

角 私は入社半年で責任を語れないので先輩の話をしてもらいます。施設の緑地管理をしている先輩が心がけているのが自分のこだわりを持つことでした。職人さんは職人さんのこだわりを持たれていますが、「ここはこうしてください」と、きちんと自分のこだわりを何回でも職人さんや施設の方にわかりやすく伝えることを心がけていて、すごいと思います。そしてそれが仕事に対する責任でもあると思っています。

惣田 配属前に上司に言われたことですが、すべての行動に目的を持って欲しいといわれました。指示を受けて、ただそれをすればいいという人もいますが、自分が指示する側になるには、何でその行動をするかを考えていないと、目的がつかめず、指導する側になったときに後悔すると教えていただきました。

例えば最初の頃は、刈り草の回収作業も、なぜこの作業が必要なのかを考えました。これは、パッカー車に入れやすくするために回収しているのだから、だとしてどこに集めるとパッカー車に入れやすいかということが考えるなど、その派生でいろいろ考えることが増えるので、それをすごく意識し、心がけています。

造園の仕事で良かったこと、やりがい

桑原 造園業界に人が入ってこないことが日造協の課題にもなっていますが、その対策の糸口が見えた気がします。若手の人材については、もう一つ離職の課題がありますが、就職して良かったと思うこと、やりがいなどが仕事を続けるうえで大切だと考えますが、業界に入って6年目になる堤さんいかがですか。

堤 難しい現場ほど達成感、やりがいがあると思っています。公園工事は協力業者の方たちと一致団結して取り組むことで初めて成り立ちます。それぞれの専門分野での知識や技術を持ち寄り、共通の目標に向かって、提示されたもの以上のより良い公園をつくり出そうと日々、関係者全員で頑張っています。

パソコンに向かい合っただけの業務は得意ではなく、現場で作業するのが好きだったりしますが、役所をはじめ発注者さんへの対応は、相手と同じレベルかそれ以上でなければならぬと思っています。人一倍図面を読み込むようにしています。工程表もきっちり組んで、毎日夕方に工程表の再確認をして工期への対応を適宜見直しています。

川野 いろいろなことができるようになることが良かったと感じています。何かと言いますと植物に関する知識、技術だけでなく、機械や工具の仕組み、その取扱などの実用的な技術が身に付いたり、仕事が早寝早起きなので自律神経も整って心身ともに鍛えられた感じがします。また、自分は本来あまり運動が得意でなく、体力に自信がありませんでしたが、入社前より体力がついたと感じています。これからもっと鍛えて働きたいと思っています。

能津 パソコンに詳しくなりました。あと、思っていた通り現場に出れる仕事で良かったです。ずっとパソコンの前だと、本当にしんどいので、自分で予定を立てて、現場に出られ、仕事の幅が広いので、すごく楽しく、新しいこと、好きなことを勉強できるのがいいです。ただ、数字関係のパソコン仕事は、何回も修正が入るので、積算を続けていると現場に出たいと思ってしまう。

また、やったことがない業務についても、聞けば皆さん教えてくれるので、いろいろ学べて充実感があります。

カ石 一番良かったことは、大学で森林の勉強はしていましたが、造園業界に

入って、今まであまり知らなかったいろいろなことを学べることです。街の中を歩いているときも勉強できるし、この木ステキ、この草カワイイなど、毎日が勉強で知識を増やせるのは楽しいです。

角 良かったことは、大きく2つあって、一つは街を見る目が変わったことです。造園に使われる植物を知って、何気なく街を歩いても、こんな風に使われているんだということが分かるようになり、生活が豊かになりました。

もう一つは、私の部署が成果物を社会に出す仕事なので、文献を調べて自分が出したのを見つけたことです。世に成果を出す仕事ができているのを実感しました。

惣田 私も日常で刺激を受けることがすごく増えたことが一番嬉しく、研修期間中に、現場を回らせていただいて、担当された方がこだわった場所やこれはダメだよねっていうことを教えてもらって、別の場所に行ったときにもそういう視点で見ることができ、何となくいいなと思っていた理由が分かったり、公園や街路を見るだけで、いろいろなことが学べて、今日も東京に来てびっくりしたのが、イチョウの剪定がとてもきれいでした。名古屋にはあまりイチョウ並木がないからかもしれませんが、造園業界に入らなかったら、スルーしちゃって、街中でこんなにたくさんすごいついて思う機会なかったと思います。造園の仕事をしている人ってすごいと思います。

桑原 すごいと感じたりするのは、先輩のアドバイスから学ばれているのか、造園に携わって自分の意識や見方が変わったからなのかということ、どちらになるのでしょうか。

惣田 私の場合は教えていただいてです。その研修期間中にいろんな現場を見せてもらい、自分で気付けることって少ないんだなって実感しました。現場でそうなった意図を教えていただいて、何も考えずに見てたものが実はすごいことであることを教えていただいて、視野が広がることは私は多かったです。

角 私はどちらもあると思っています。これまでスルーしてたことを自分で注意して見るようになったのと、職人さんから、「ここはこういうこだわりがある」と聞いて初めて分かることもあります。

教えてもらう・自分で気づく学び

桑原 なかなかこういう機会はないと思いますので、同世代同士で聞いてみたいことがあればいかがですか。

カ石 能津さんが花壇植栽のお仕事をされていて、私も時々現場に行きますが、花の名前や品種がカタカナで覚えるのが大変ですが、花の名前をどう覚えるのかをお聞きしたいです。

能津 花壇デザインをするときに花の品種と色を指定します。カタログを見て使いたいもの、僕は好きなものは覚えられないタイプなので覚えられます。また、何か珍しいものを使ったら、お客さんに「これなに？」って聞かれるので、自分も分からなければその度に調べるので刷り込まれ、何回も何回も反芻して覚えます。

10年後 自分の将来のビジョン

桑原 最後にご自身の10年後、将来のビジョンをお聞きかせいただけますか。

能津 1人で現場を全部回せたらいいなって思います。今は何をやるにも上司の確認が必要ですが、1人で九州とか東北の仕事を取って、現場を回したいと思っています。

カ石 設計は今、上司の補佐をしていて、自分の設計をお客様に提案するということはまだありませんが、今後、上司からいただいた知識などを勉強、吸収して自分の設計で、自分らしさ、会社らしさでお客さんに提案して、そういう空間が利用される方々の癒しや感動してもらえる場所になったり、そういう場所づくりをして、感動をお客さんに提供できるようになりたいと思います。

角 会社に資格奨励の仕組みがあるので、いろいろな資格を取ることで会社に還元できることが増えればいいなと思います。

また、現在は、上司の確認がないと物事を進められない立場にいるので、例えば今こういうことがしたいんですけど言っても、私1人ではすぐに動かさないことが多いですが、自分がやりたいことを協力を得て動かせる立場になればと思います。

惣田 むちゃぶりをしてもらえたい人になりたいです。ちょっと言い過ぎかもしれませんが、「これやってみてくれない？」と、挑戦させていただける人になりたいです。

言い方変えると、私ならできるかもしれないって思っていただけというところで、成功するか失敗するかは、別に

して挑戦する機会をいただけるのは、すごい光栄だなと、入社してから強く思っています。

これは、直属の先輩が任されている姿を隣でよく見ていて、かっこいいなって、すごく思うのでそういう人間になれたらなと思っています。

堤 10年後は、会社内でも上の立場になってくると思うんですけど、新しい技術がどんどん出てくる中で、この現場は難しいけど、できる場所があるかなっていう時に、「九州造園に頼んだらいいんじゃない」と言ってもらえるようにするのが、今の自分の目標です。

川野 10年後になると実務経験の年数的にも、取得できる資格も増えるので、ちゃんと取得し、技術や知識だけでなく、自分の仕事ぶりから、お客さんにこれは川野に頼みたいとか、同じ会社の人なら、川野と一緒に現場で嬉しいとか、そういつてもらえる人になりたいと思っています。

桑原 本当に頼もしいといいますが、若い方のお話をお聞きして印象的だったのは、感動とワクワクと癒しを与えていきたいという熱い想いです。大変有意義な時間でした。

働きやすく、楽しくて魅力のある造園業界にしていけることが、私たちの役目だと再認識しました。今日はありがとうございました。



進行 桑原 宣基